

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

千葉県 千葉市立大椎中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年11月15日 (木)
- ク ラ ス : 2年A組 (35名)、2年B組 (35名)
- オリンピアン : 長岡 千里 先生 (ボブスレー)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、2時間を通して自身の経験談を交えながら「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」という3つのオリンピックバリューを皆に伝えていく、と授業の目的を確認。
- ・特に柔軟体操は怪我の予防につながると説明しながらストレッチやそり競技の姿勢を紹介した後、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班毎3チームに分かれ8の字跳び(90秒×3回)実施。制限時間内に跳べた回数を競う。引っかけたも加算して数えることとした。各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やすためにはどうしたらよいかをチーム毎に話し合った。

4. まとめ



- ・8の字跳びでは、結果的に順位がつかうが、その結果以上に作戦タイムで話し合い、自分がチームに貢献できるかということをも一人一人が考えることがより大切だと伝えた。
- ・オリンピックバリューは、オリンピックだけのものではなく、皆の学校生活や日常にもつながっているととても大切なものであることを、座学の時間に学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・トリノ大会の映像や自身の競技用具を見せながらボブスレーの競技を解説。
- ・オリンピックシンボルに触れ、5つの輪や、使用されている色の意味を説明。
- ・オリンピックに出場するまでの経験を通して感じたオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）のエピソードを伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：運動の時間を振り返り、作戦会議で話し合ったことを書き出してみよう。
- 発表①：縄の長さ、回すスピードを調節した(エクセレンス)、一人一人の跳ぶタイミングを決めた、縄の抜け方を調節した(フレンドシップ)、相手を勇気づけるような言葉をかけた、声を出し合った(リスペクト)等の意見が挙げられた。
- 発問②：話し合った結果を受けて、自分が感じたことを書き出してみよう。
- 発表②：もう一度チャレンジしたい(エクセレンス)、チームワークが深まった、回数を重ねるごとに協力して記録を伸ばすことができた(フレンドシップ)、グループ全体の雰囲気良かった(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・改めてオリンピックバリューは、皆の日常生活の中に見出すことができるものであることを確認。
- ・東京2020大会について触れ、自国でオリンピックを観戦できる機会は人生の中で数少ないチャンスである。千葉県でも競技が開催されることから様々なことに興味を持ち、あらゆる形でオリンピックに参加してほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年11月16日 (金)
- ク ラ ス : 2年C組 (34名)、2年D組 (35名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、2時間の授業を通して「オリンピックがどのようなものなのかを探る」、「自分自身が今よりも向上するために必要なことは何か」という2点を授業の目的として確認。
- ・運動の時間は、「全力で取り組む」「クラスの仲間と協力し合う」「ルールを守る」の3つのことを意識して取り組むよう伝える。
- ・じゃんけん勝ち抜け、ボール回しを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班毎3チームに分かれ8の字跳び(90秒×3回)を実施。引っかかったら1から数え直し、制限時間内に連続して跳べた一番多い回数を競う。各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やすためにはどうしたらよいかをチーム毎に話し合った。

4. まとめ



- ・結果的に記録が伸びることもあれば、目標に届かないこともある。大切なことは、記録を伸ばすために、良かった点、悪かった点をどう活かしていくかを皆で考え、目標も設定して取り組むことである。
- ・次の時間はさらにオリンピックがどういうものかを探っていくが、運動の時間に感じたことを思い出しながら、座学の時間に臨んでほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルの5つの輪は5大陸を表し、世界平和の願いが込められていること、その願いを提唱し近代オリンピックを創設した人がクーベルタンであることを紹介し、平和であるために自分達に出来ることは何か、オリンピックが世界平和のために定めている大切なことは何か、そのことをこの座学の授業で考えてみようという授業の目的を伝え、自身の経験を通して感じたオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を説明。

3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返ってどのようなことが3つのオリンピックバリューに当てはまるのか（クラス・チームの良かったところ）を考えてみよう。
 （C組のみ1, 2班：エクセレンス、3, 4班：フレンドシップ、5, 6班：リスペクトを考えるよう指定）

発表：目標を高く持つ、全力で集中して行動を早くする(エクセレンス)、アドバイスをする、仲間と協力をし、皆で喜び合える(フレンドシップ)、仲間の努力を認め合い、全力で拍手をする、周りの人を気遣う、反則をしない(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・グループワークで発表した意見は、オリンピックで大切にされている3つの「オリンピックバリュー」と共通しているものであり、日常生活の中で生きてくると話す。
 ・皆もこれから上手いかないことがきつとある。しかしその時に今日感じたことや考えたことを活かしてほしいと話す。最後に千葉県で競技が開催されることに触れ、観戦するだけではなく、ボランティアや様々なものに目を向けて楽しんでほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年A組



2年B組





■ 集合写真
2年C組



2年D組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



■ 修了書贈呈

